

食品の取扱従事者は、自分の健康状態に気を配るとともに衛生にも配慮したいものです。職場での検便は、少なくとも月1回定期的に行われます。その検便は食中毒起因菌の保菌者から食品への二次汚染を防止するために行われるもので、確実に受けることが必要です。

また、排便後の手指にも注意が必要です。トイレトーパーで便を拭き取った場合には、糞便中の細菌がトーパーを通過して手指に付着することがあります。そのままでは、作業着、便器のバルブや個室のドアのノブなどに付着させてしまい、作業器具などや後で使用する人に汚染させてしまうこととなります。また、トイレトーパーは便が肛門のひだに入り込みふき取れないともいわれています。トイレには温水洗浄と温風乾燥が理想といえます。また、手指の洗浄消毒ができて、さらに個室ドアが自動的に開くような配慮もしたいものです。

検便は煩わしいものです。幼少の頃、寄生虫検査ではオマルに新聞紙を敷いて便を取り、割り箸などを用いてマッチ箱に入れ、学校へ持っていったことを思い出します。新聞紙や割り箸などの後始末が大変でした。また、ランドセルに入れた時の臭いが気になりました。

今、プラスチック製で DISPOSABLE の採便容器が主流です。採便方式は、スプーン型、綿棒型、スポイト型、スティック型などがあり、キャップと一体となっていて、昔のように苦勞せずに採便できます。新発売した「E-E採便管」は、スティック型です。便に5～6回突き刺して採ります。

栄研製材株式会社 遠藤明彦

糞便の自己管理

糞便は色、形、臭いなどによって自分の健康状態を知ることができるとされています。痔や直腸ガンなどの病気の貴重な情報となります。とくに、検便による便潜血検査は、大腸ガンの早期発見の補助手段につながります。糞便中の目に見えない微量の血液の有無で判定します。便潜血検査用の採便容器もスティック型です。

水洗トイレの便器には、糞便が水に浸かってしまって観察しにくかったり、採りにくいものがあります。便座に逆向きで座ったり、いつもと違う姿勢をしたり大変苦勞します。便潜血検査では、便が水に浸かってしまうと便の表面に付いている血液が流れてしまい、正しく検査ができません。新聞紙やオマルではその後始末がやはり大変です。

「トレールペーパー」は、水洗トイレ用に開発された採便専用シートです。このシートは水洗トイレの水に浮かべてその上に糞便を採ることができますので、便の観察ができ、また採便が楽にできます。また、水に溶ける素材ですので、採便後はそのまま流すことができ、後始末もいりません。

「E-E採便管」と「トレールペーパー」とを併用すると、採便が簡便にできますので、糞便の自己管理にお役立てください。

